

広報

かみす

2024年

4/1

No.411

Kamisu public relations



神栖ディスカバリー

File 10



特集

SDGs

鹿島共同可燃ごみクリーンセンター本格稼働

Pick up

2024年度 市民相談…………… P6~7

乳がん検診・子宮がん検診、総合健診…………… P8~9

各種予防接種について…………… P10~11

新しい可燃ごみ処理施設と神栖市第一リサイクルプラザを中心に、神栖のごみと資源のゆくえを紹介します。



市メールマガジンはコチラ



広報かみすが動き出す

【COCOAR】アプリをダウンロードし表紙にスマートフォンをかざしてください。詳しくは14ページ



【COCOAR】





ゴミとSDGs

鹿島共同可燃ごみクリーンセンター本格稼働

私たちが出したごみはどこへ運ばれ、どのように処理されるのでしょうか。いよいよ今月から「鹿島共同可燃ごみクリーンセンター」が本格稼働します。そこで今回は、神栖市の環境にやさしいごみ処理やリサイクル事情に迫ります。

環境とごみ問題

生活していると必ず出る、さまざまなごみ。私たちの出すごみが増え続けられ、生活環境はもちろん地球環境にも影響を及ぼします。そのためごみ問題は世界共通の課題であり、国連総会で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)でも重要なテーマの一つとなっています。神栖市では、SDGsの国際目標を市の基本構想や環境基本計画に反映し、環境への負荷が少ない循環型のまちづくりを進めています。



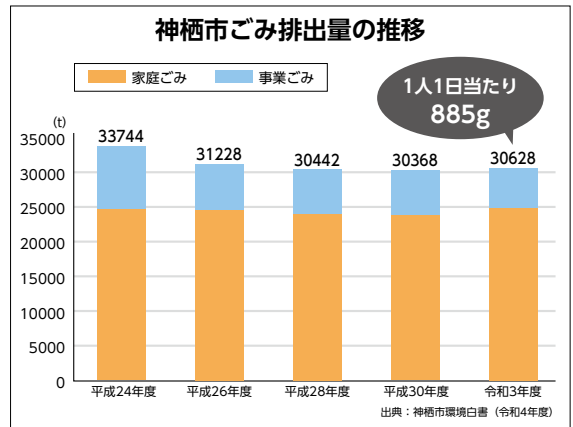
プラットホームにて。左から三菱重工環境・化学エンジニアリング(株)の清水さん、伊藤さん、鹿島地方事務組合の飯田さん、阿尾さん、熊野裕さん



焼却炉(外壁)



中央制御室でクレーンを操作



新しい可燃ごみ処理施設

さっそく鹿島共同可燃ごみクリーンセンターを訪ね、三菱重工環境・化学エンジニアリング(株)の清水さん

そうした中、4月1日に「鹿島共同可燃ごみクリーンセンター」が本格稼働。そもそもなぜ新施設を建設したのか、鹿島地方事務組合事務局長の飯田さんに聞きました。

「これまで可燃ごみはRDF(固形燃料)化してきましたが、施設の老朽化に加え、多くの灯油を使うため環境負荷の問題もありました。そのため、低炭素社会を目指す国の方針に沿った新施設が建設されました」

と伊藤さんに新施設の概要を教えてくださいました。

可燃ごみの処理能力は1日当たり230トンで、115トン処理できる焼却炉が2基あります。炉内のごみはストロカ(火格子)の上をゆっくり進みながら、850℃以上の高温で燃やされます。



モニターで炉内を確認

4階の部屋の窓からは、巨大なごみピットにためたごみをクレーンでかき混ぜる様子が見えます。ごみピットの深さは約30メートル。工事中は、湧き出す水をくみ上げながら地下10メートルまで掘り下げたそうです。

他にも、なんと夜間には建物と煙突が7色にライトアップされます。鹿島コンビナートの夜景スポットに、新しい見どころが加わりました。

電気をつくり、環境を汚さない技術

この新施設に、「環境への配慮では弊社の最高の技術を使っています」と語る清水さん。環境にやさしいポイントを挙げてもらいました。

1 電気をつくる！

ごみを燃やしたときに発生する熱を蒸気に変え、蒸気タービンを回して発電します。自前の電気でプラントを稼働し、余った電気は電力会社に売ります。発電量は4880kW、売電量は3500kWと、まるで小さな発電所です。

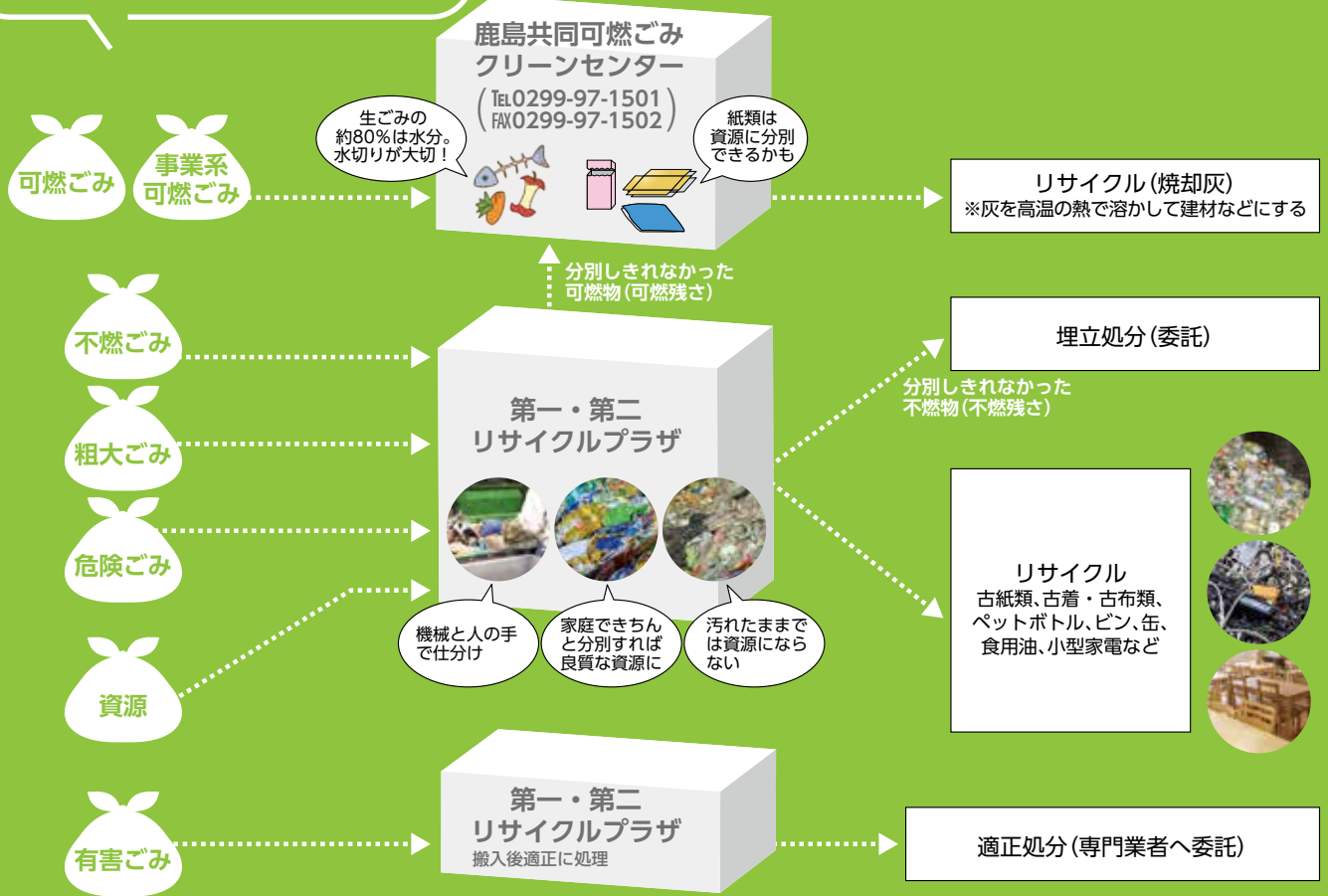
2 大気を汚さない！

排ガスに含まれるすすやチリ、有害ガスなどを最新設備できいにし、国が定める基準よりも大幅に低い数値にしてから排出します。煙突は高さ59メートル。上空には、煙ではなく水蒸気が放出されます。

3 悪臭を出さない！

ごみ収集車が入るプラットホームの入口は、高速シャッターとエアカーテンで臭いが外に漏れるのを防ぎます。ごみピットは密閉して吸気悪臭のする空気は焼却炉へ送り、燃焼空気として活用します。

私たちのごみと資源のゆくえ



④ 汚水を出さない！

ごみピットの底には生ごみから出た汚水がたまりまます。また、ごみ収集車を洗浄した水も汚れています。それらの排水を、プラント内の排ガス冷却水として再利用します。

⑤ 環境について学べる！

施設には見学路が整備されており、窓越しに見えるさまざま設備は迫力満点。「小学校低学年でも楽しみながらごみや環境について学ぶことができます」(清水さん)、「ごみ処理施設が、私たちの生活と密接に結び付いていることをご理解いただけるよう願っています。市民に開かれた施設ですので、ご予約の上、見学に来てください」(伊藤さん)

分別のルールが変わる！

新施設の稼働により、ごみの分別などが一部変わるため、市では変更点をまとめたチラシや「ごみの出し方・分け方ガイドブック」を全戸配布しました。今までの不燃ごみの一部が新たに可燃ごみとなります。また、可燃ごみの大きさ



も重要です。長さ50センチ、太さまたは厚さ20センチを超え

るごみは投入口に詰まって施設を停止することになりかねません。新しいルールに慣れるまで戸惑うかもしれませんが、ぜひこの機会にご確認ください。

鹿島地方事務組合では、焼却灰を埋め立てず資源化する準備を進めています。これからのような思いで新施設の管理を担っていくのか尋ねました。

「24時間稼働しているので、事故などで施設が止まることのないようにするのが一番です。そのために、現場で業務に当たる皆さんと密接に連携していきます」(阿尾さん)、「ごみ処理は、やって当たり前」"と思われたいますが、作業に従事している回収業者や処理施設の職員は、埃まみれになって毎日休まず働いています。そうした皆さんとともに、スムーズなごみ処理を支えて市民生活に寄与していきます」(飯田さん)

神栖ごみ分別アプリ
スマートフォンで収集日
や分別方法が分かる！



▲Google Play



▲iOS

神栖市第一リサイクルプラザ

リサイクルを支える施設

さあ次は、不燃ごみ・資源・粗大ごみを追いかけてみましょう。市内に2つあるリサイクルプラザのうち、今回は神栖市第一リサイクルプラザを訪ね、その役割について所長の原さんに聞きました。「ここは2つの機能を併せ持つ施設です。リサイ

クル工場棟では不燃ごみ・資源・粗大ごみを選別処理し、役立つ資源へと生まれ変わらせます。プラザ棟には市民が利用できる研修室や工



神栖市第一リサイクルプラザ



神栖市第一リサイクルプラザの原正所長(左)、大地建設(株)の高須信一郎さん(右)



集められた不燃ごみの山



圧縮したペットボトル。ラベルを剥がせば良質なリサイクル資源になるのだが...



ペットボトルのキャップを手作業で取り外す

房があり、ごみの減量や資源化を身近に学べます」

令和4年度には、不燃ごみ約4087トン、資源約1686トン、粗大ごみ約1223トン、その他のごみ約615トンが運び込まれ、選別処理されています。

なぜ分別が大切なのか

リサイクル工場棟を管理する大地建設(株)の高須さんの案内で、工場見学へ。1日当たり26トンの処理能力がある破碎・選別機械設備はあるものの、手作業が必要な工程もたくさんあります。膨大な量のごみを仕分けするのは気が遠くなるような作業です。「ペットボトルや空き缶は、汚れたまま出されると資源として再生できません。残念ながら破碎や焼却に回されるものが多いのが現状です。」

また、不燃ごみに充電式の製品やリチウムイオン電池が混ざっているとは非常に危険です。破碎機の振動で発火

することがあります」と問題点を話す高須さん。ごみの分別は、作業員の安全を守るためにも必要なのだと実感しました。



NPO法人あすなろ会の高橋等代表

工場内ではNPO法人あすなろ会の皆さんが、ペットボトルをリサイクルするための手選別作業をしていました。代表の高橋さんが「資源として出されているのに、汚れていたペットボトルやラベルが付いたままのペットボトルが混ざっていることが多いです。それらのキャップやラベルは手作業で外しています。また、

ほかにもいろいろなものが混ざっていて、分別に非常に手間がかかります。市民の皆さんにはぜひきちんと分別し、ペットボトルはキャップとラベルを取り、す

すいだから出していただきたいと思っています」と話してくれました。

ごみを資源とするために！

第一リサイクルプラザでは、年に3回、粗大ごみから再生した「家具の抽選販売」や、家庭で不要になったものを使いたい方に差し上げる「もらいます・あげますキャンペーン」を実施しています。新品未使用の食器類や生活雑貨、汚れない衣類やバッグなど、家に眠っているものを役立てるチャンスです。

「リサイクルの目的は、限りある天然資源の消費を抑え、ごみの埋め立て処分を減らすなど、環境への負荷をできる限り軽減することです。混ざればごみ・分ければ資源」を合言葉に分別のご協力をお願いします」と原さんは呼びかけます。

リサイクルは、SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」と関わりの深い取り組みです。私たち一人ひとりが分別のルールを守り、きれいな資源を出すよう心がけることが、循環型のまちづくりへの確かな一歩となります。皆さんも、これまではごみだと思っていたものを「どうしたら役立てられるか」考えてみませんか？